

ピロリ菌

気になる、

慢性胃炎や胃潰瘍、胃がんなどの発生リスクを高める「ピロリ菌」。
一度は検査をしておく、安心

胃がんを発症する人のほとんどの胃の中に潜んでいるのがピロリ菌ですが、総じて、ピロリ菌がいても痛くもかゆくもありません。「自分は大丈夫」と決めつけず、一度検査を受けてみましょう。胃がんのリスクを確実に減らせます。

感染経路で多いのは食べ物の口移し

少し食べすぎただけで胃もたれになる、胃が重い感じがする。病院にかかるほどではない軽い不調を胃に抱えている人は、胃の中にピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）が潜んでいるかもしれない。

「ピロリ菌が胃の中にもいる、自覚症状のない人がほとんどです。なかには、私は胃だけは丈夫なの。」と、まるで不快感がない場合も、調べてみるとピロリ菌がいることもあります」と、奥田クリニック院長の奥田武志さん。現在40代ぐらいまでの人の場合は、健康診断の項目にピロリ菌検査が含まれていることが多い。検査で陽性だとわかると、内視鏡検査を行い、胃がんが発

＜ピロリ菌の感染経路＞



食べ物の口移し、同じスプーンや箸を使うなどすることで、感染することが多い。ゆうゆう世代が子育てをしていたときは当たり前の食べ物の口移し、スプーンや箸などの共用はピロリ菌だけでなく、虫歯菌や歯周病菌の感染も招くので、絶対にやめよう。

菌です。自然界では河川や井戸水の中にもいます。そのためかつては、井戸水を飲んだり、川で泳いだりするとピロリ菌に感染する、といわれたことがありました。もちろんそうしたことでも感染する可能性もありますが、実は感染経路で一番多いのが、食べ物などを口移しでもらうこと。感染源の7割が母親、1割が父親といわれているんですよ。たいいていの場合、離乳期、赤ちゃん時代に感染します。5歳を過ぎれば、免疫機能も整ってくるので、親からの感染も減ると考えられています」

子ども時代に親から口移しで食べ物をもらった記憶のある読者も多いだろう。でも自分が孫に同じことをするのは、厳禁だ。

胃の不調のあるなしにかかわらず一度検査を

＜ピロリ菌検査一覧＞

胃カメラ（内視鏡）を利用しない検査

呼吸テスト

専用の薬を飲んで、少し時間をおいてから、息を吐き、呼吸中にピロリ菌がいるかどうかの反応を見る。

血液・尿検査

ピロリ菌が胃の中にいると、血液や尿の中に抗体が作られる。この抗体の量を調べることで、感染の有無を判断する。

便中抗原検査

いわゆる検便。便を取って、その便の中に含まれる抗原の量を調べて、ピロリ菌に感染しているかどうかを判断する。

胃カメラ（内視鏡）検査

迅速ウレアーゼ検査

胃カメラで胃の粘膜の状態を確認しながら、胃粘膜の一部を1〜2ミリ採取し、ピロリ菌がいるかどうかを確認する。その場で結果がわかる。

培養検査

胃カメラ検査で採取した粘膜の一部を培養し、ピロリ菌が増殖するかどうかを調べる。結果がわかるまで時間がかかる。

顕微鏡検査

採取した粘膜を染色し、顕微鏡で確認する。採取しなかった場所にピロリ菌が多く存在するなど、組織を取る場所によって偽陰性になることも。

どの検査方法も精度は高いので、1種類の検査だけでも判断できるが、複数の検査を行えば、より確かに判定できる。



お話を伺ったのは

奥田武志さん
医療法人社団 健風会
奥田クリニック 院長

おくた・たけし ●1988年日本医科大学卒業、同大学第一外科入局。北村山公立病院、三菱重工大倉山病院、下谷病院、日本医科大学病院などの勤務を経て、2008年より現職。日本消化器内視鏡学会専門医（指導医）、日本消化器学会指導医、日本ヘリコバクター学会H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医。

生していないことを確認して、薬による除菌治療を行う。このためピロリ菌保有者や胃がんの患者はひと昔前に比べるとかなり減った。だが、ゆうゆう世代は検査を受け

ていない人が意外に多いので、要注意。そもそもピロリ菌とは、どんな細菌なのだろうか？
人間の体内では、胃の中にだけすみ着く

すぐに胃の病気を発症するわけではない。ピロリ菌は胃の中でウレアーゼというアンモニアを作って胃の粘膜を傷つけ、炎症を起す。この状態が続くと胃炎となり、胃もたれや胃の重さ、食欲低下などの症状が表れたりする。

場合でも費用は2500円程度（施設によって、料金は異なる）。
もし感染していたら子どもや孫も検査を

ただし胃炎になっても、胃痛を感じることはまれだ。軽い場合は数時間、数日でおさまってしまうことも多く、ゆうべ食べすぎたせいかもしれない。ストレスや疲れが胃に出たのかな。などと放置しがちだ。「胃炎を繰り返す人の中の一部に、胃がんになる人がいます。そして胃潰瘍や胃がんなどになる人のほとんどの胃の中には、ピロリ菌がいます。またピロリ菌が胃の中

「これまで高齢の方に対しては、積極的な検査や除菌治療を行っていただけなかったのですが、現在80代の人たちの約7割程度がピロリ菌がいるのではないかと推測されます。今は人生100年時代ですから、80歳を過ぎてもピロリ菌検査と除菌治療は受けるべき。そうすれば100歳までの20年の間、胃がんになるリスクを確実に減らせます」
服薬によるピロリ菌の除菌治療成功率は98%以上。一度除菌すると、再感染することはほぼない。

いる時間が長ければ長いほど、胃がんなどになるリスクも高まります。逆にいえば、ピロリ菌を退治すれば胃がんが発生するリスクは低下するといえるでしょう。ですから検査を受けたことのない人は、胃の不調のあるなしにかかわらず、一度胃の中をチェックしてもらったほうがいいと思います」
健康な人の場合、ピロリ菌検査は保険適用とはならない。しかし自治体の健診などで安価に受けることができ、自費で受けた

「検査を受けて、ピロリ菌がいるとわかったら、お子さんやお孫さんにもピロリ菌検査を勧めてください。自分が知らない間に、お子さんにつし、さらにお子さんからお孫さんへとうつっている可能性もあります。ピロリ菌の有無を調べ、少しでも早く除菌治療を受けることが、胃がん予防には大切です」

今月のドクターから

胃の不調がある人も、全くない人も、一度はピロリ菌の検査を受け、しっかり胃がんを予防。100歳まで元気に過ごそう！